

京都文化交流 コンベンションビューロー通信

7月号
KYOTO
SECTION METS BUSINESS



日本最大級のインディーズゲームの祭典「BitSummit」

CONTENTS

- P1…2025年の京都での国際会議の開催状況
P2…令和8年度のMICE助成金について
P2…海外プロモーションについて
P3…企業誘致事業の取組（BitSummit参加）
P3…「TechTourKYOTO」事業の実施
P3…京都迎賓館記念販売所からのお知らせ
- P4…「村田記念 古典の日文化基金未来賞」受賞者決まる
P4…伏見区役所と連携事業を実施
P4…街かど古典カフェ開催
P4…「源氏物語 王朝のかがやき」展トークイベント

MICE 2025年の京都での国際会議の開催状況

6月19日に、2025年に京都で開催された国際会議の開催状況について発表しました。

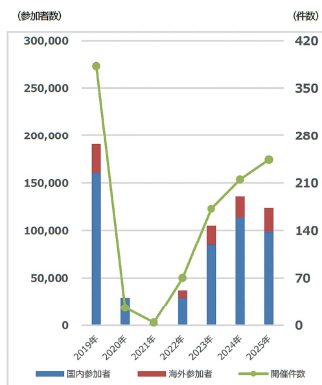
前年に引き続き国際会議の開催件数が増加し、京都全域で259件となり、2020年以降で最も高い水準となりました。関係機関との連携による誘致活動や助成制度の活用などにより、JNTO基準による国際会議の開催件数は、京都市域で244件（前年より29件増）、市域を除く京都府域で16件（前年より1件増）を記録しました。

京都市域では、国内参加者数は前年より減少した一方で、5月に「世界超音波医学生物学連合第20回学術集会」、9月に「第15回国際先天代謝異常学会」など、海外参加者が多数参加される大型国際会議が開催されました。その結果、海外参加者数は増加し、海外参加者比率は20.2%となりました。国際会議協会（ICCA）基準では、京都市の開催件数は53件（前年より4件増）となりましたが、前年より4位下がり世界46位となり、件数が増加する中でも順位が変動し、国際的な都市間競争の激化がうかがえる結果となりました。

京都府域（市域を除く）においては、精華町などで国際会議が開催され、前年の件数と同水準を維持しました。

今後とも、会員企業・団体の皆様、京都府、京都市、京都商工会議所、国立京都国際会館・京都市勧業館みやこめっせ等の各MICE施設、京都府警、京都市大学等各大学など関係者の皆様方との連携をさらに強化するとともに、サステナブルなMICEの推進や、京都ならではの文化資源を活かした魅力的なMICEの創出を後押しし、国際会議の誘致・開催に努めてまいります。

年別開催件数・参加者数（京都市域）



京都市域	開催件数	244件	前年比 113.5%
	総参加者数	123,628人	前年比 91.1%
京都府域を除く府域	開催件数	16件	前年比 106.7%
	総参加者数	4,401人	前年比 91.8%
京都府全域合計	開催件数	259件*	前年比 112.6%
	総参加者数	127,976人*	前年比 91.0%

（*：1件府・市重複あり/府・市重複分は1件として集計）

MICE 令和8年度のMICE助成金について

当財団では、京都府・京都市からの補助金を財源として、京都へのMICE誘致・開催支援を目的とする各種助成金・補助金制度を設けております。

京都市域においては、今年度から「京都市MICE開催支援助成金」について、より多くの主催者に対して支援を行うことができるよう制度を拡充し、京都でのMICE開催を一層促進してまいります。また「サステナブルなMICE開催支援補助制度」については、環境に配慮した会議運営の取組を一層促進するため、補助上限額を50万円へ拡充しました。さらに「京都らしいMICE開催支援補助制度」におけるユニークベニュープログラムの補助上限額を

200万円に引き上げ、歴史的建造物や文化施設等を活用した京都ならではの魅力的なMICEの創出を後押しします。

京都府域においても、域外で開催されるコンベンションの分科会開催やエキスカージョンも対象とするほか、幅広くMICEの誘致及び開催を推進します。

詳しくは当財団のHPをご覧ください。なお、既に多数のご申請を頂いており、早期の段階で予算上限に達することも想定されることから、すべての案件に助成できかねる可能性もございます。予めご了承くださいませ。



MICE 海外プロモーションについて

当財団では、海外でのMICE商談会への参加や京都でのMICE商談会の開催などの海外プロモーションも積極的に行っています。今年度実施したもののうちで直近の取組について、ご紹介させていただきます。

① The Meetings Show Asia Pacific 2026 にブースを出展

4月14日～15日にシンガポールで開催された「The Meetings Show Asia Pacific 2026」に参加しました。本イベントは世界中からMICE業界のプロフェッショナルが集結するアジア太平洋地域最大級の商談会で、MICE案件を保有する招待バイヤー（PCO（会議や関連行事を取り扱う会社）/DMC（開催地に関する豊富な専門知識、情報、経営資源等を活用し、MICE等に関わるプログラム、ツアー等を企画・提案し、サービスを提供する会社）/旅行代理店/イベントプランナー/学術集会事務局等）と連日渡って約40件の商談を実施し、京都ならではのMICE提案として、MICE施設、宿泊施設、ユニークベニュー、文化アクティビティ等の情報提供を行いました。

一昨年の実績と比較して、欧米・豪州・インド等の面談件数が増え、目的地として京都への関心がアジア太平洋地域から更なる広がりが示されました。



② IMEX Frankfurt 2026 に京都ブースを出展

5月19日～21日にドイツ・フランクフルトで開催された欧州最大のMICE専門見本市「IMEX Frankfurt 2026」において、昨年よりブース規模と出展事業者数を拡大し、国立京都国際会館、阪急交通社、ヒルトン京都、京都東急ホテル、The J-Team、リッツカールトン京都の計6社とともに、京都ブースを出展いたしました。

今年度は、京都ブースへの訪問件数も大幅に増加し、商談内容の中には、MICE案件に京都企業や大学への訪問や交流なども行程に取り入れたいという要望も多く寄せられたため、京都市とともに本年度実施している「Tech Tour Kyoto」事業のアピールも併せて行いました。



MICE 企業誘致事業の取組（BitSummit 参加）

当財団では、京都市からの受託事業「京都⇄海外」ビジネスマッチング促進プロジェクト」の一環で、企業誘致の実現性を高めるため、毎年京都で開催される**日本最大級のインディーズゲームの祭典「BitSummit」**において、5月22日～24日にPRブースの出展を行いました。

本事業は、多数の海外企業や政府関係者等が参加する展示会や各種イベントの機会を最大限有効に活用するため、スタートアップ企業等の海外展開支援や海外企業誘致などの取組に加え、MICE との連携やユニークバニエの活用を通じて、市内企業の海外展開に向けたPR・海外企業とのマッチング機会の創出、また海外企業の誘致を図ることを目的としています。

ブースの出展を通じて、イベントに来場した様々な海外の企業や政府関係者に対して、MICE における補助金の取組やユニーク

バニエを活用したイベント等の実施、また京都における MICE 開催の在り方などについて、**情報提供や意見交換**を行いました。

当財団では、今後も、京都市と連携し、MICE 需要の獲得と開催支援の強化、また持続可能な MICE 開催に向けた海外企業誘致等に取り組んで参ります。



BitSummit ゲームブースの様子



BitSummit インディーズゲームブース

MICE 「TechTourKYOTO」事業の実施

当財団が事務局を担っている「TechTour KYOTO」の一環として、ヨルダン駐日大使一行を迎え、2日間の京都視察ツアーを開催しました。知事・市長への表敬訪問をはじめ、京都企業やスタートアップ企業の視察、京都市イノベーションセンターでの意見交換などを通じて、京都の産業やイノベーションの取組を紹介しました。また、各訪問先では企業によるプレゼンテーションや活発な意見交換が行われ、参加者は製品や技術、事業展開の可能性に高い関心を示していました。

本ツアーでは、**京都のものづくりや先進技術、スタートアップ**

の魅力を発信とともに、京都とヨルダンの新たなビジネス連携や交流の可能性を探る有意義な機会となりました。今後も TechTour KYOTO を通じて、産業都市京都の魅力を国内外へ発信してまいります。



京都市イノベーションセンターにて、センター長やヨルダン大使のご挨拶、中小機構様による概況報告などが行われ、活発な意見交換の場となりました。

文化発信 京都迎賓館記念販売所からのお知らせ

京都迎賓館は、海外からの賓客をお迎えし、日本への理解と友好を深めていただくために平成17年（2005年）に開館した国の迎賓施設です。平安建都1200年記念事業の一環としてオール京都で国に対して誘致を行い、京都御苑内に開館してから20周年を迎えた昨年度（2025年度）は、多くの一般参観者にご来場をいただきました。新たに21年目の歩みをスタートしました本年も、引き続き多くのご来場をいただき賑わいを見せています。

また、当財団では、京都迎賓館記念品販



京都府内産木材使用ボックス



記念品販売所（清和院休憩所内）と木製カプセルトイレボックス

売所において参観記念のお土産として「オリジナル記念品」の企画・販売を行っております。今春には、**京都府内産ひのき材を使用した木製カプセルトイレボックス**を新たに設置いたしました。

ぜひ、この機会にお立ち寄りください。



清和院休憩所（外観）

文化発信 「村田記念 古典の日文化基金未来賞」受賞者決まる

「古典の日文化基金賞」は、今年から古典文化の未来を担う子供たち若者たちと、その活動を支援する皆さんを奨励する賞に生まれかわり、その第1回目の受賞者が決まりました。

受賞者は、王朝文化の研究に取り組む大妻女子大学准教授の**赤澤真理さん（東京）**、沖縄の組踊をベースに舞台活動を続けている

肝高の阿麻和利（沖縄）とひらかた肝高倶楽部（大阪）の共同受賞、そして近江湖北の文化発信に努める**對馬佳菜子さん（滋賀）**です。

授賞式は11月1日（日）に京都府民ホールアルティで、「古典の日燦爛」として古典の日フォーラムとあわせて開催します。詳細はホームページをご覧ください。

文化発信 伏見区役所と連携事業を実施

古典の日をより広く知っていただく活動の一つとして、京都市の各区役所に古典の日のポスターを掲示していただいたのに続き、**伏見区役所が開く「わくわくまなび塾」**で、古典の日推進委員会がコーディネートして、委員会のアカデミア講師である**書家の杭迫柏樹先生の書道教室を6月20日に開催**しました。伏見区内の21人の小中学生が参加し杭迫先生の「手で書くことの大切さ」についてお話しの後、それぞれが考えた一文字を、杭迫先生とお弟子さんの

西川文苑先生から指導を受けながら練習し、うちわに書きあげました。子供たちからは「楽しかった」「思ったより上手に書けた」「いい経験ができました」という声が聞かれました。杭迫先生が「書道を好きになってくださいな」と声を掛けられていました。



講座風景

文化発信 街かど古典カフェ開催

寛永行幸400年祭と連携して、奈良大学文学部の河内将芳教授を講師に『戦国時代から寛永行幸にいたる軌跡』と題して6月27日に京都経済センターで街かど古典カフェを開催しました。中世には内裏を出ることはなかった天皇が、織田、豊臣、徳川という政権の流れの中で寛永行幸に至った意味に迫りました。講座には55人が参加し、先生のわかりやすい解説に、「背景がよく分かった」「12月に行われる行列の再現を見てみたいです」といった声が聞かれました。



古典カフェ

文化発信 「源氏物語 王朝のかがやき」展トークイベント

京都国立博物館で開催される「源氏物語 王朝のかがやき」展（10月6日～11月29日）とコラボしたトークイベントを開催します。古典の日の原点である「源氏物語」と紫式部について、**鎌谷壽氏（同志社女子大学名誉教授）**、**山本淳子氏（京都先端科学大学教授）**による講演のあと、京都国立博物館の研究員が加わって出品作品の魅力について解説します。11月3日（火）の午後1時開演予定。詳細は展覧会の公式ホームページでご案内します。（<http://genjiten.jp>）

新規賛助会員のご紹介 2026年7月1日現在

株式会社オンザページ (KIYOMIZU 京都東山)	(株) カナザワコーポレーション (料理工房ホワイトファミリー)	保津川遊船企業組合	琥珀 Apartment Hotel Kyoto	くらま温泉

公益財団法人 京都文化交流コンベンションビューロー(KCVB) 〒600-8009 京都市下京区四条通室町東入面谷鈴町78番地 京都経済センター3階

TEL:075-353-3050 FAX:075-353-3055
<https://hellokcb.or.jp>

インボイス制度に係る登録番号 T9130005012622